

# 墓じまい 東北急増

## 22年度・8805件 10年で2割プラス



「墓じまい」が増えている仙台市葛岡墓園  
— 仙台市青葉区

人生の最期に向けて準備する「終活」の一環で、先祖が眠る墓を処分する「墓じまい（改葬）」が東北でも急速に広がっている。直近10年で件数は2割増え、仙台市営の墓地に限れば4倍に急増している。維持する負担を子孫に残したくないとの思いや、単身世帯の増加といった家族の在り方の変化が背景にある。「バーチャル霊園」など墓じまいをサポートする葬儀業界のサービスも関心を集める。  
(経済部・菊間深哉) Ⅲ 3面に関連記事



厚生労働省衛生行政報告例によると、墓石を撤去し更地に戻して敷地を墓地の管理者に返還する「改葬」の東北6県の件数はグラフ①の通り。2013年度からの10年間で緩やかに増加傾向をたどり、22年度は13年度比で20・8%増の8805件に上った。仙台市の公営墓地は、高度成長期に東北各県から流入した人々に墓を供給してきた。世代が変わっていく中で、墓

## 子孫の維持負担考慮 少子化や非婚化影響

じまいは極めて急ピッチで進んでいる。市健康福祉局事業概要によると、改葬件数はグラフ②の通り。3カ所の墓地で23年度は計349件に増え、10年間で4・3倍となった。

### 従来型は敬遠

市の担当者は「ここ数年で墓の需要が急激に変わった。23年度は従来型の墓の返還件数が、新たな貸出件数を初めて上回った」と説明する。

墓じまいで再び貸し出しに回った市営墓地の区画は、成約されずに空きになるケースが多い。少子化や非婚化といった家族の在り方の変化に伴い、代々跡継ぎが必要な従来型の墓は敬遠される傾向が強まる。

宮城、山形、東京の3都県で墓石小売店を展開するまっしまメモリアルランド(宮城県松島町)は、今年から墓じまいの流れを紹介した無料ガイドブックの配布を始めた。従来



型の墓に加え、複数の遺骨をまとめて埋葬する「合祀墓」や樹木葬、納骨堂、散骨といった多様な選択肢を提示する。23年度の主な契約件数の25%を墓じまいが占め、10年前の13年度(1%)から急増しており、墓じまいの実態を事前に正しく理解してもらう必要があった。

岡部健司専務は「墓は解体して終わりではなく、先祖の遺骨をどこかに移さなくてはいけない。合祀墓など次世代の負担の少ない改葬先を選ん

でおくのが、生前の親の責任と見られるような風潮に、いつの間にかなってきた」と明かす。

### ネットに霊園

葬祭業の清月記(仙台市)は、墓じまいが増えたことで遺骨を海にまく「海洋葬」の件数がこの数年、倍増を重ねている。ニーズの変化を先取りするとして、年内にも大手商社と連携した「バーチャル霊園」事業をスタートさせる。

故人の写真や文章といった思い出を親戚や友人同士で共有できるインターネット上の「お墓」で、物理的な墓がなくとも故人の人生を思い返すことができる。

菅原裕典社長は「社会の変化で墓参りの機会が減っており、そもそも墓は必要なのかという話になる。納骨堂や樹木葬は一気に墓じまいするまでの一時的な形態のように思える。墓がなくとも、弔う気持ちが残るはずだ」と指摘する。

## 葬儀業界、新サービスも